

音楽三田会

〒105 東京都港区西新橋1-10-8
第2森ビル ミリオンコンサート内 音楽三田会事務局
TEL 501-5638
印刷 啓文堂

音楽三田会の発足に寄せて



音楽三田会の発足を皆々様と共に慶ぶ一人として、

藤山一郎
(大正七年幼稚舎入学)

音楽界に身を投じ、現在の盛況を見る様になったわけです。

共通して言えることは、福沢先生の独立自尊の教えが社会のどこに居ても精神の中心たる柱になっていると思われることです。

私の場合は勿論ですが、音楽のブロの世界は一般に外見が派手で、しかも詮ずるところ一人一人が完全な独立したプレーヤーである点、一層その教えの大切さを感じるわけでした。

演奏家の場合、個人々々が自己研鑽を積み上げてのソロ、そう言った人達によるデュエット、トリオ、クワルテット、そして更にアンサンブルと、それが何十名の集合体となるうとも、基本となる個人の独立自尊が最も大切なことでしよう。

オーボエとフルートの二重奏、三本のホルンによる美しい密集和

音、軽快なジャズコンボ、優雅なサロンアンサンブル、魅惑のフルスイングバンド、そして大編成のオーケストラ、その何れの場合も音楽の美を表現する根本に個人の良きプレーがあります。責任ある音の表現の集合が調和して更に美しいサウンドになる、ソリストに伴奏がよりそってそこに見事な音が創られる、私はいつもそんな風に思っています。

私が幼稚舎の頃、三田山上の大ホールで童謡を歌ったことがありました。アップライトのピアノで伴奏して下さったのは幼稚舎教諭江澤清太郎先生。

普通部に進んではブルーベルマンドリンアンサンブルでマチョツキ作曲の組曲を歌ったりしました。中でも大塚淳先生の指揮されるワグネルンサエティオーケストラを背

音楽三田会一年の成果

昨年十一月六日、行なわれた「慶應連合三田会大会」の催しでは、

日吉記念館の舞台上に並んだ出演者の全員が紹介された。私は佐々木信也の所へ飛んで行って「ダーク・ダックス」のメンバーは一人ずつ紹介すべきだと提言した。同意した佐々木は親しみ易いニック・ネームで四

にして、ワグナーの「夕星の歌」を歌った時の感激は、五十年余の歳月を経た今も私の胸の中にあります。ドイツ語は片仮名にして覚えたのでした。そして福沢先生の腕組みをされた姿が我々のすべてを見おろして居られました。

* * *

音楽三田会。姓名は勿論、顔も姿も、年齢も生い立ちも、みんな夫々に違ふ藝員が此の度結集して一つの会を組織されるに当り、その美しいハーモニーをこれから塾の内外に響かせることが出来るかどうかは、一にかかって各個人の善意と協調、そして独立自尊の精神体現にあるうかと考えます。三色旗の下に、音楽を共通の軸として我々社中同一層実り多き人生を共に歩みたいものと考えて居ります。

いソノてルヲ
(昭和二十八年改)

人を紹介した。演奏の前に二八会同期の喜早哲に「君の顔でクラシック、ポピュラー、ジャズと結集できたよ」と称讃した所、彼は「福沢先生の顔ですよ、慶応の偉大さがつくづくわかった」と答えた。

ダークのコーラス、吉田先生のフルート・トリオ、フランキー堺のド

ラム、小林亜星のヴァイブ、中村絃子のショパン、大橋節夫のハワイアン、加山雄三のショウ、それにNHKベースのクイズ番組(司会が中江陽三アナ、石坂浩二、中村、佐々木マンガ、小林・対・いっノ、加山、紺野美沙子、三波豊和)。

並の音楽プロデューサーなら絶対に集められない顔ぶれである。しかも、一人出演時間が十五〜二〇分、コンパクトに収められたショウで、雨の中を誰一人いやな顔をしないで楽しそうに出演している。これは母

岡山の三田音楽の現状

「音楽三田会」の設立、誠にお目出度うございます。私は、昭和二十九年以来、故郷の岡山へ帰り、地方交響楽団運動、又岡山大学へも講師として引張出され等して、今だに、地方音楽文化へ、かかわりを持たされて居ります。

現在倉敷で、倉敷管弦楽団(約八十名)というのをやって居ります。此の中に、川名光治(四十九年経卒cl、三菱石油)、浅井直樹(五十六年経卒vn、川崎製鉄)、深沢秀雄(五十六年工卒va、三菱化成)、塚田則彦(五十七年経卒cb、農林中金)と小生(十六年法卒vc、柘本産業)、

校を愛していなければ絶対不可能な豪華なショウ集団であった。

当音楽三田会結成に当り、旧知の畏友小尾旭君からジャズ・ポピュラー関係の音楽人調査をたのまれたのが一年前。私の作ったリストも微力ながら役に立った。二回の総会でも司会をやらせて頂いた。しかし結成の年、連合三田会のアトラクションを盛り上げられたのが良かった。半世紀前の芸文三田会の轍をふまぬよう、アクティヴに運営してゆきたいと念願している。

柘本辰郎

(昭和十六年法卒)

以上五名が居り、皆重要なポストに座っています。狭義には岡山ワグネル会かも判りません。又皆がプロではないのですが、塾出身の楽隊屋が、音大卒業生よりも重要視され、地方でも活躍を続け気をはいて居ります。地元、岡山大学に次ぐ団内第二の学(楽)閥です。

※柘本辰郎氏は、長年にわたる地元オーケストラ運動と、岡山大学非常勤講師(音楽)としての活動が認められ、昨年の十一月一日、岡山県より「文化功労賞」(社会教育部門)が授与されました。

ISCM世界音楽の日に参加して

石田一志

昨年十一月の「音楽三田会」総会の頃、デンマークの第二の都市オーフスで催されたISCM(国際現代音楽協会)の音楽祭「世界音楽の日々」に取材に出掛けた。(「音楽芸術」一月号参)

ISCMの音楽祭は、一九二三年にザルツブルクで第一回が催された伝統ある現代音楽会で、毎年、主催地を移して催されている。戦前には、今日現代音楽の古典と評価されているシェーンベルク、ストラヴィンスキー、バルトーク、ラヴェル等々の傑作が数々初演されているし、戦後も今日巨匠に評価されている作曲家の重要作品の多くがこの音楽祭を通して世界に知られるようになった。今回も、注目作がひしめいて並んでいた。ざっと作品の傾向を展望すれば、数年前まで現代音楽の代名詞だった実験的音楽、前衛的音楽が少くなり、これまでの実験、前衛で獲得した視座や手法を効かしつつ、きわめて総合的な語法でシリアスに、又、健康的な感性を通わせた作品が増えていることが注目されたのである。それだけに、作曲家の個々人の思想や美学のちがいと云うよ

り、むしろ力量のちがいや民族的な感性のちがいがでていようだった。日本からは松平頼則氏と土居克行氏のオーケストラ作品と、現在アメリカ在住の湯浅譲二氏のシアター・ピースが演奏された。松平氏(上野学園大教授)は音楽三田会会員で一九三四年予科中退。子息の立教大教授の松平頼暁氏と共に、この音楽祭での出品を重ねている作曲家である。湯浅氏(カリフォルニア大学教授)も、大学中退で慶応に縁をもっている音楽三田会会員である。こんな遠方で、先輩達と一緒にいるとは思わなかったし、慶応に関係をもつ音楽家達の活躍ぶりを改めて確認した次第である。ISCMは、先に述べたように主催地を移して開催されているが、日本がその当番を引き受けたことが一度もないことが、ここ長らく各国会員や運営委員から鋭く批判されている。松平氏と湯浅氏によれば、日本支部の財力がないこと、国の援助が得にくいことなどが障害になっているのでこのことであった。その意味では三田会あたりの助力があると、松平氏や湯浅氏をはじめ、日本支部の作曲家達の国際的活

動がもつと円滑にいくのではないかと思われた。

なお、デンマークの首都のコペンハーゲンには、幼稚園で同級だった大林徳五郎君（三十四年〇組卒）が

同地のオルガン会社でパイプ・オルガンの設計と完成後の調整を行う要職についていた。彼にもこの会の存在を伝え、是非会員になるよう勧誘した。

ムダ手を打つのはやめよう

油井正一



ではない。そのうえ担当者は泣き声で訴えた。「今日も朝から放送会社やDJから時間の問い合わせにお答えするのが手一杯で、事務には全然手がまわらないんです」。試みにB社にきいてみると、全くおなじ答えがかえってきた。

十一月発売の新譜LPをみて驚いた。ジャケットにもレーベルにもどれもこれも曲の演奏時間が記載されていない。数年まえにはJAS規格とかで、必ず時間は記載されていたものである。すぐA社の担当者に電話で問い合わせると、「レコード協会からのお達しで一切記載しなくなったんです。演奏レコード対策だそうです」。演奏時間を書く、それによってC46で間に合うか50でなければダメかがわかってしまうからだ、と担当者は答えたが、納得できる答え

達を出すはずがないから、恐らくは各社の重役が協議の結果、それを最良策として実行に移したものであろうが、そのため利用者が不便を感じ、事務が停滞するとあっては、経費倍増に寄与するだけの拙策といわれてもやむを得ない。そのうえ、「レコード芸術」は巻末の新譜一覧表に、演奏時間の掲載をはじめたし、「スイング・ジャーナル」も読者サービスとして実行するという。会社のオエラ方もう一度益よりも害が多いこのムダ手を検討すべきではあるまいか。

収支計算報告書

昭和59年3月31日

1. 収入の部			
入会金	入会金納入32名分		160,000円
懇親会会費	3回分		433,000円
預金利息	富士銀行普通預金		4,382円
雑収入	写真申込分		7,200円
	合計		604,582円
2. 支出の部			
会場費	3回分		423,060円
記録費	写真代		8,600円
印刷費	会報ほか		132,300円
通信費	案内、返信ほか		61,500円
	合計		625,460円
	当期不足額		20,878円
3. 繰越金			
	前年度繰越金		295,769円
	本年度不足金		20,878円
	次年度繰越金		274,891円

入金未納の方は、至急お払い込み下さいますよう、
お願い申し上げます。

振込先 富士銀行新橋支店

口座名 音楽三田会

口座番号 普通一三〇—九八六一七四

掲示板

服部正、芳村伊三蔵両君が叙勲

春の叙勲で作曲・指揮の服部正君（国立音楽大学名誉教授・昭和六年卒）が勲四等旭日小綬章を、また長唄の芳村伊三蔵君が勲五等瑞宝章を叙勲されました。お慶び申し上げます。

鈴木敬介君が第十五回サントリー音楽賞を受賞

演出家の鈴木敬介君（日生劇場企画部長・昭和三十二年経卒）が、第十五回サントリー音楽賞の受賞者に選ばれました。日生劇場が開場二十周年を記念して昨年十月、四作品を集中連続で上演した「モーツァルト・オペラ・シリーズ」の企画・制作者としての功績、それらを今日のオペラとして再創造した演出家としての功績が受賞の理由となりました。

毎月一回会合しています

毎月第一月曜日夜七時から、帝国ホテル本館地下一階の東京三田倶楽部にて、月例の世話人打合せ会を行っています。音楽三田会会員は、

どなたでも出席が自由ですから、ぜひ参加ください。世話人募集します

世話人は音楽三田会の発起人を中心に選ばれましたが、会をお世話くださる方、特に若い方の中で、われと思わぬ方は、ふるってお申し出ください。

会員の動静をお伝えします

会員のあらゆる動静をこの掲示板でお伝えいたします。会員が催す演

「音楽三田会」会則

一、本会は「音楽三田会」と称し、会員相互の親睦と交流を目的とする。

二、本会は、慶応義塾に学び、音楽を職業とするものをもって会員とする。

三、定例懇親会は原則として年二回（一月、七月）開催する。

四、本会は、会長一名、世話人若干名、監事二名、必要に応じて副会長数名を置くものとする。

五、会員は入会の際に入会金（五〇〇〇円）を納入し、また会合の都度、出席者は参加費を支払うものとする。

付則 一、会報並びに会員の名簿を発行する。

奏会なり出版なり、宣伝なさりたいことを遠慮なく、どしどしご投稿ください。

投書大歓迎！

音楽三田会会報では「会員の声」欄を設けております。自由な内容で四百字以内。ふるって投書してください。

総会についてのご意見を！

音楽三田会を息長く、盛大で楽しいものにしてゆくために、会のあり方、とくに定例懇親会でのアトラクションなどに、ご意見や、アイデアがありましたら、ぜひ世話人にお聞かせくださいますよう、お願いいたします。

また規約にもありますように、本会の会費は入会金のみで、あとは集会の都度、会費制をとってまかなうという方式です。懇親会当日、ご出席のお返事をいただきながら、お出しにならない場合、会の経理運営上支障をきたす恐れもありますので、直前のご欠席をみないようご配慮のほどよろしくお願い申し上げます。
（会報の題字はNHK交響楽団監事桑水流正明氏にお願いいたしました。）

音楽三田会役員

会長	野村光一
監事	村田武雄
〃	油井正一
世話人代表	寺西春雄
世話人	安倍寧
〃	石橋裕
〃	いソノテルヲ
〃	笈田敏夫
〃	大野洋
〃	大橋節夫
〃	大山英治
〃	岡弘道
〃	小川光彦
〃	小尾旭
〃	観世栄夫
〃	北村英治
〃	喜早哲
〃	黒川昌満
〃	小林亜星
〃	清水久嗣
〃	高橋勇
〃	中野博詞
〃	中村紘子
〃	服部紘子
〃	峰岸壮一
〃	三善清達
〃	山下博譽

編集後記

音楽三田会会報第二号をお届けいたします。今回ご寄稿くださいました方々に心から御礼申し上げます。編集に関するご意見がございましたら、ぜひおっしゃってください。